



NPO PTPL “ともいき” 便り No. 209

令和4年（2022年）5月5日発行

■ 立夏（りっか） 令和4年5月5日から令和4年5月20日までの節気

家の近くの遊歩道には、今、ツツジが満開です。ピンクや白の花がこんもりと咲いています。子どもの頃、かすかな甘みを味わえるのが嬉しくて、よくツツジの蜜を吸ったものです。泥つきのタケノコも八百屋に並んでいます、やはり子どもの頃、タケノコの皮に、梅干しを挟んでちゅうちゅう吸ったものです。ツツジの蜜も、タケノコの皮に梅干しも、あまりポピュラーではないかもしれませんが。ちなみに、私は昭和30年代に子ども時代を過ごしました。

さて、5月5日（木）から20日（金）まで、「立夏」の節気となります。新緑の美しい爽やかな季節です。先日、芦花公園に行きました。雑木林が多く残されていて、まあ、緑、緑、緑。風がある日だったので、ゆっさゆっさ葉が揺れて、その隙間から太陽の光がチロチロこぼれて、めまいを起こしそうになるほどの迫力でした。生長のエネルギーに満ちているというのでしょうか。圧倒されて、なぜか不安な気持ちになってきました。気持ちが自然に負けそうな感覚。少し疲れていたからかもしれません。元気だったら、逆にエネルギーをもらったのかもしれないね。

5月の第2日曜日は母の日です。今年は5月8日（日）。母の日の由来は有名ですが、改めて「ともいき暦」から解説を引用したいと思います。

「1907年(明治40年)5月9日の日曜日、米国・ウェストバージニア州のメソジスト教会で、亡くなったミス・ジャービスという女性の追悼式が行われました。教会には白いカーネーションがいっぱい飾られ、参列者たちはジャービスの娘で、当時43歳だったアンナ・ジャービスから「お母さまに感謝してください」と白いカーネーションが一本一本配られました。

ミス・ジャービスは協会の日曜学校の先生をしていました。子どもたちに神の教えを説くとき、特にモーゼの十戒の中の「汝の父母を敬え」を取り上げ、「母

の恩にどう報いるのかを考えなさい」と強調していました。それだけにアンナも母の追悼式で、何か母親への感謝を型で表すことはできないかと考え、カーネーションを贈ることを思いついたのだといわれています。

この話を聞いたのが、米国初の百貨店経営者として有名なジョン・ワナメーカーでした。YMCA 運動にも尽力したワナメーカーは翌 1908 年、同じ 5 月の第 2 日曜日に自らのデパートで母を讃える記念行事を行い、アンナ・ジャービスのことを PR しました。一方、アンナは政界の有力者たちに「母に感謝する日を設けるべきだ」と提案する手紙を出し続けました。これがついに時の米国大統領ウッドロー・ウィルソンを動かしました。

牧師の子供だったウィルソンは 1914 年(大正 3 年)5 月の第 2 日曜日を「母の日」とすることを提案、連邦議会の議決により祝日として決まりました。ウィルソン大統領はこう宣言したといえます。「わが国の母に捧げる愛と敬意の印として、この日は国旗を掲揚しよう。」

以来、「母の日」は世界中に広がり、母を亡くした人は白いカーネーション、健在な人は赤いカーネーションを胸にさし、花束を贈って感謝を表す風習が定着していきました。」

日本で広まったのは昭和 22 年(1947 年)ごろだそうです。

5 月 10 日(火)から 16 日(金)は、愛鳥週間です。「鳥類に関する正しい知識を広め、その保護と愛護の精神を高めることを目的としています。最近、スズメの姿をほとんど見ませんが、皆さまのお住まいの地域はいかがでしょうか。そういえば、2、3 年前に、世田谷区内の川辺でカワセミを見たことがあります。今も見られたらいいのですけど。

先日、熊谷守一美術館に行ってきました。熊谷守一は、明治 13 年に生まれ、97 歳で亡くなった画家です。映画「モリのいる場所」(2018 年 5 月公開・沖田修一監督・熊谷守一役は山崎努、妻役は樹木希林)を観た方はご存知のことと思いますが、守一は 30 年もの間、ほとんど外出せずに自宅の庭の生命を描き続けました。美術館を作った、次女の熊谷榎(かや)は、「守一は、命を大切にしていたので、生きとし生けるもの、何気ない身の回りのものに眼差しがいったのでしょ。」と美術館パンフレットに書いています。文化勲章も辞退しています。それについても、榎は「もともと勲章に象徴されるような権威主義を嫌っていたからです。なるべく目立たないように、自分の思うまま、描きたい時だ

け描いて、そっと生きた人生でした。」と書いています。

守一は、特に鳥が好きだったそうです。熊谷守一美術館は東京豊島区にあります。小さな美術館ですが、ホッとできる癒しの場所です。私も童話を書いています。自分の書きたいことを、書きたい時だけ書いて、そっと生きていけたらいいなとしみじみ思います。

浅草神社の三社祭が行われます。5月20日（金）から22日（月）。感染症の状況によって変更があるかもしれませんし、氏子執行員については、「ワクチン3回接種済み、又は5月19日以降のPCR検査において陰性であること。・不織布マスク着用の上、神社指定の布マスクを佩用すること。・直前の検温にて平熱であり、手指のアルコール消毒をすること。」という条件が付けられています。三社祭は神田祭、山王祭と並ぶ東京三大祭の1つ。東京に夏の訪れを告げるお祭りです。

気象庁の季節予報によると、今年の夏も北・東・西日本で平均気温が高い確率50%だそうです。（ということは、高くない確率も50%？）いずれにしても、猛暑の夏になることは間違いなさそうです。皆さま、ご覚悟を！

立夏の満月は5月16日（月）です。お月さま、見られるといいですね。

すとう あさえ (NPO PTPL 会員)

■ともいき・ともうみ・ともさち、そして和。それは日本的なるもの「ジャパネスク」日本人の感覚、ジャパネスク。

ジャパネスクのホームページをご覧ください。

<http://www.japanesque.tokyo/>

日本 2022 ジャパネスク

「ともいき」、「ともうみ」、「ともさち」、そして「和」。

日本から世界へ、世界から日本へ。和魂世界才へ。

勝田 祥三 (NPOPTPL 理事長)

■事務局便り

この号が届くころはゴールデンウィークも終わりの頃でしょう。

どのようなウィークを過ごされましたか？

今年は3年ぶりに制限のないウィークとなり、各地では多くの観光客でにぎわい、交通機関も定員オーバーや長距離の渋滞など、以前の活気を取り戻した感があります。

このまま新型コロナウイルスもおさまり、元の生活に戻れば万々歳なのですが。。。。。

- 日本というものを基盤において活動する NPO PTPL が企画制作運営するサイト・FB をご覧ください。

「NPO PTPL 公式ホームページ」：<http://www.plantatree.gr.jp/>

「ジャパネスク」：<http://www.japanesque.tokyo/>

「ともいき暦」：<http://www.tomoiki.ptpl.or.jp/calendar/2022>

「ともいきチャンネル」[ともいきチャンネル - YouTube](#)

- 会員募集のご案内

NPO 活動（ジャパネスク運動）を推進していくためには、多くの皆さま方のご支援・ご協力が不可欠です。

NPO PTPL では、常時、個人会員と法人会員を募集しています。この便りをお読みの方で、ご本人またはお知り合いの方々にご案内いただければ幸いです。お力添えのほど、どうぞよろしく申し上げます。

詳しくは下記まで、メールまたはお電話・FAX にてお尋ねください。

NPO PLANT A TREE PALNT LOVE 事務局

〒141-0022 東京都品川区東五反田 2-7-11 東都ビル 201 号

■ 電話：03-6432-5911 F A X：03-6432-5912 Email：info@ptpl.or.jp